

タイガーハイパーエードTネクスト
耐力壁

【枠組壁工法】

・枠組仕様 国土交通大臣認定 TBFC-0168

施工仕様書
[令和7年10月版]



目 次

項目	ページ
----	-----

- | | |
|---------------------|----|
| 1. 耐力壁認定内容・適用範囲 | 2 |
| 2. 製品規格・標準寸法・物性 | 3 |
| 3. 接合具について | 4 |
| 4. THHT ネクスト取扱い上の注意 | 4 |
| 5. ねじ打ちに関する注意事項 | 5 |
| 6. 施工方法 | 9 |
| 7. 各部の施工方法 | 11 |

タイガーハイパーハードTネクストの施工に関する注意事項

タイガーハイパーハードTネクスト（以下THHTネクスト）は枠組壁工法の国土交通大臣認定を取得したせっこう系耐力面材です。耐力壁は、建物の水平耐力を請け負う構造耐力上主要な部分に該当します。そのため正しい方法で施工を行わなければ本来の耐力性能を得る事が出来ませんので、本書を基に、現場毎の施工要領書および施工計画書の作成をお願いいたします。

尚、本書はTHHTネクストを1枚張りで耐力壁となすための施工仕様書となっております。縦継ぎ張りで耐力壁とする場合は、各認定書およびP11「①縦継ぎ張りについて」を必ずご確認いただき、ご不明点はお問合せください。

また、以下に本施工仕様書内における用語の定義を記載します。

- ・1枚張り : 面材を鉛直方向に継がず、1枚の面材で上枠まで張り上げること（継手受材を設けない）。
- ・縦継ぎ張り : 継手受材を設けて面材を鉛直方向に継ぎ張りすること。
- ・雑壁 : 耐力壁ではない壁。

1. 耐力壁認定内容・適用範囲

表1 THHTネクストを使用する耐力壁と認定番号

工法	認定番号	壁倍率	面材	接合具	ねじピッチ
枠組壁工法	TBFC-0168	2.4	タイガーハイパーハードTネクスト	DTSN 4.2×32 (JIS B 1125 : 2015)	外周部 75mm 中通り 150mm

【適用範囲】

- ・THHTネクストを使用した耐力壁の適用範囲は、平成13年国土交通省告示第1540号に準拠した枠組壁工法を用いた建築物とする。
- ・平成13年国土交通省告示第1540号第5号表1及び2に掲げる壁及び建築基準法施行規則第8条の3に基づく国土交通大臣の認定を受けた壁を併用する場合は、本件耐力壁及び併用する耐力壁の仕様を満足するものに限り、倍率の数値7を限度としてそれぞれの倍率の数値を加算できるものとする。ただし、加算した倍率の数値の合計が5を超える場合には、当該の壁の枠材に実際に作用する圧縮力及び引抜力に対して横架材・基礎ばかりが十分な強度を有することを確認すること。
- ・THHTネクストの枠組を準耐力壁等として存在壁量に算入する場合の壁倍率の数値の算定方法は以下の表によるものとする。

表 準耐力壁等として壁倍率認定の数値の算定方法

準耐力壁等の種類	倍率
(1) 耐力壁線上にない間仕切壁	当該壁倍率認定の倍率 ^{※1} ×0.6（3を超える場合は3）
(2) 垂れ壁及び腰壁	当該壁倍率認定の倍率 ^{※1} ×0.6×(面材の高さの合計 ^{※2} ／横架材間内法寸法)

※1 複数の枠組壁工法の耐力壁を併用する場合には、それぞれの壁倍率の数値を加算した数値

※2 面材の高さの合計が横架材内法寸法の8/10以下の場合、壁長さは2メートル以下とする。

- 耐力壁線上以外に準耐力壁として本件の枠組を設置する場合に、当該準耐力壁の加算後の壁倍率の数値が 1.5 を超える場合には、当該準耐力壁の上下に適切な横架材を配置しなければならない。また、当該準耐力壁の加算後の壁倍率が 3 以上である場合には、当該準耐力壁の枠材に実際に作用する圧縮力及び引抜力に対して横架材・基礎ばかりが十分な耐力を有することを確認すること。
- 適用部位は、枠組壁工法を用いた建築物の屋内に面する部分で、かつ常時湿潤状態となるおそれのない部分に使用するものとする。

2. 製品規格・標準寸法・物性

[規格]

- JIS 認証 : JIS A 6901 セッコウボード (GB-R)
- 防火材料認定 : NM-5511 不燃材料

表2 標準寸法

	厚さ (mm)	幅 (mm)	長さ (mm)	参考重量 (kg)
標準寸法	12.5	910	3000	28

注1) 標準寸法以外のサイズについてはお問い合わせください。

表3 物性1 (試験方法はJIS A 6901による)

含水率 (%)	曲げ破壊荷重 (N)	
	長さ方向	幅方向
3 以下	500 以上	200 以上

表4 物性2 (「一般財団法人 建材試験センター」による測定値)

項目	単位	物性値※
透湿率	ng/(m · s · Pa)	16.8
透湿抵抗	(m ² · s · Pa)/ng	0.76 × 10 ⁻³
	(m ² · h · mmHg)/g	1.6
透湿比抵抗	(m · s · Pa)/ng	0.060
熱伝導率	W/(m · K)	0.22
熱抵抗	(m ² · K)/W	0.058

※測定値であり、保証値ではありません。

3. 接合具について

接合具（ねじ）は、JIS B 1125 : 2015 に規定される「ドリリングタッピングねじ DTSN4.2×32」を使用してください。

※DTSN4.2×32 は、当社でも販売しておりますのでお問い合わせください。

入数：100本×20巻×2箱（計4000本） 仕様：シート連結 施工枚数（標準寸法の場合）：最大32枚／箱

4. THHT ネクスト取扱い上の注意

4-1 荷姿

保管荷姿は通常、THHT ネクスト（12.5mm）で80枚を1山としています。

詳細な枚数については、最寄りの支店・営業所へご確認ください。

4-2 運搬

THHT ネクストの搬入は、建設元請業者の監督員との打ち合わせにより、現場の搬入計画に基づいて行ってください。

4-3 保管

- ・荷くずれ、角欠けがないように均等に置いてください。
- ・傾斜面、墨出し部に置かないでください。
- ・凸凹面や水漏れ部には置かないでください。上階から漏水の恐れがある場合は、あらかじめシートなどでTHHT ネクストが濡れないように養生してください。
- ・THHT ネクストの保管は、波打ちや反りを防止するため高さのそろった台上にボードの縁が台からはみ出ないようにしてください（図1参照）。また、各山の一番上のボードは裏面を上面とし、保管する場合は、必ずパレット積みとしてください。
- ・2段積みなどを行う場合は、台木の位置を1段目と2段目で揃えてください。
- ・THHT ネクストを踏み台にしないでください。

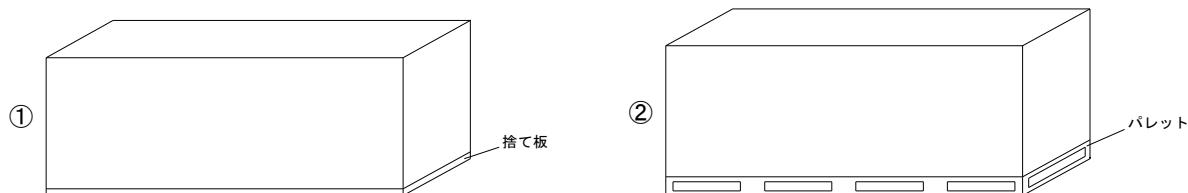


図1 THHT ネクスト保管概略図

5. ねじ打ちに関する注意事項

- ・THHT ネクストは、幅・高さの寸法に応じてねじ本数が規定されていますので、P7 表5の一覧表に記載の本数を遵守してください。また、THHT ネクストは、原則1枚張りとします。縦継ぎ張りとする場合については、各仕様の認定書に記載のねじ本数表を必ずご確認ください。
- ・ねじ留め間隔が外周部で 75mm (マーキングからのねじのずれの許容差: $\pm 8\text{mm}$) 以下、中通りで 150mm (マーキングからのねじのずれの許容差: $\pm 15\text{mm}$) 以下としてください (図2 参照)。
- ・ねじ打ちによる面材の割れが確認された場合、該当する THHT ネクストを全面取替えとします。
- ・ねじ頭が面材と面一になるよう、必ず試し打ちを行い、自動ねじ打ち機の設定およびエア一圧を調整してからねじ打ちしてください。また、樹種毎に調整をお願いいたします。
- ・自動ねじ打ち機で打ち込み不足が生じた場合、ドライバー等でねじ頭が面材と面一になるよう留め付けてください。
- ・自動ねじ打ち機で施工する際、枠材からねじが外れた場合にねじが貫通し施工面の裏側に飛び抜ける恐れがありますので、必ず反対側に人がいないことを確認してください。
- ・打ち損じ等が生じた場合、必要に応じて増し打ち等の補修を行ってください。

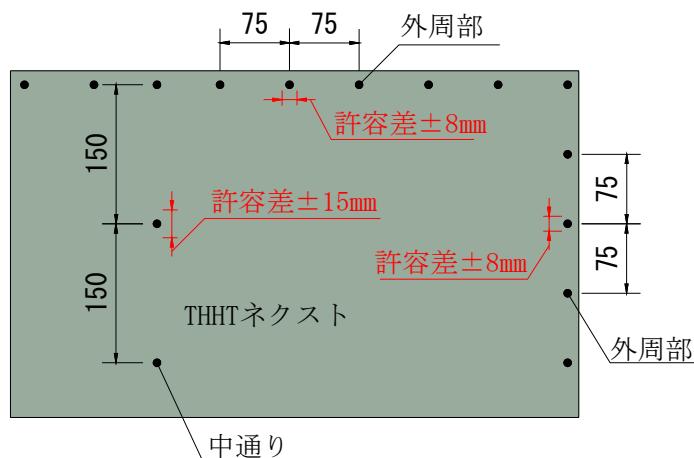


図2 マーキングからのずれの許容差について

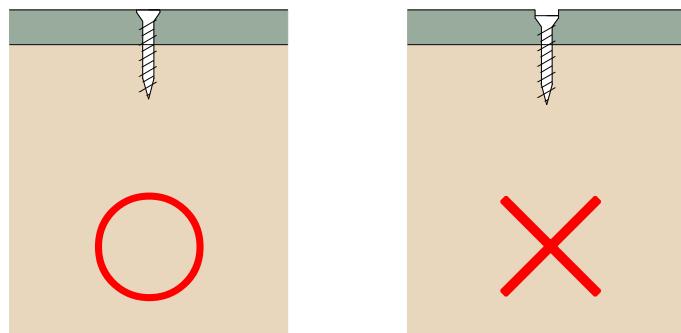


図3 ねじめり込み概略

- THHT ネクストの長手方向にねじピッチを示すマーカーを外周部 75mm 間隔、中通り 150mm 間隔の黒色の破線で示していますので、規定の留付け間隔になるようにねじ打ちを行ってください（図 4-1 参照）。
- THHT ネクストは軸組と枠組の仕様があり、それぞれ面材縁部 - 留め付け具間の距離（縁端距離）が異なります。枠組の場合はたて枠の縁端距離が 10mm となっており、面材縁側のマーカーを目安にねじ打ちを行ってください。
- THHT ネクストの短手方向にマーカーは入っていません。面材外周部の規定ピッチと縁端距離を守って施工時にマークリング等をしてからねじ留めしてください。マーカーは印刷の都合上、若干のズレが生じる場合があります。マーカーは目安とし、規定されたねじの縁端距離およびねじ本数でねじ打ちしてください。

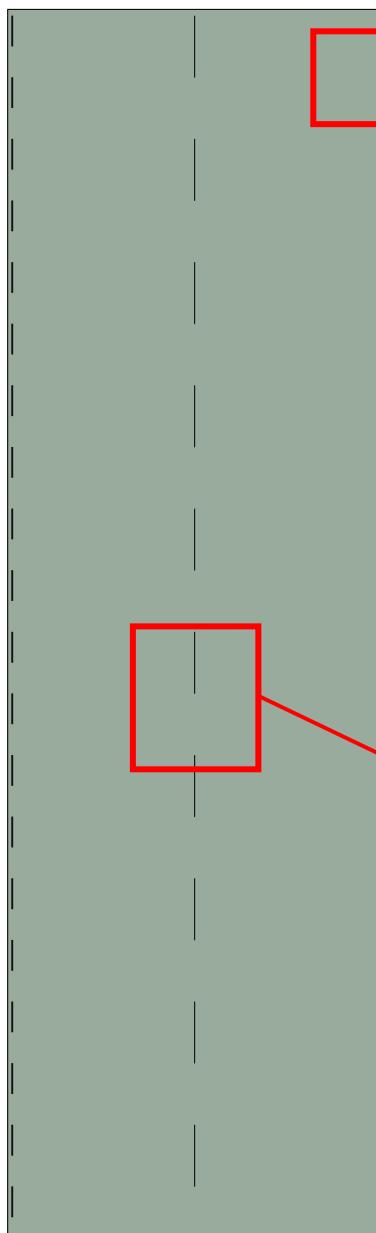


図 4-1 THHT ネクスト 910mm×3000mm 板 外観（表側）

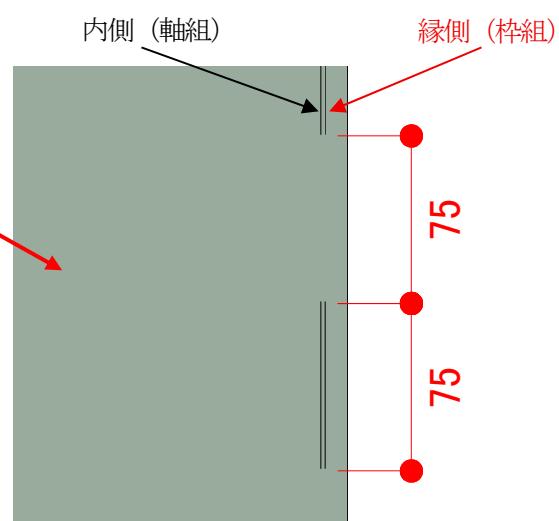


図 4-2 拡大図（右縁部）

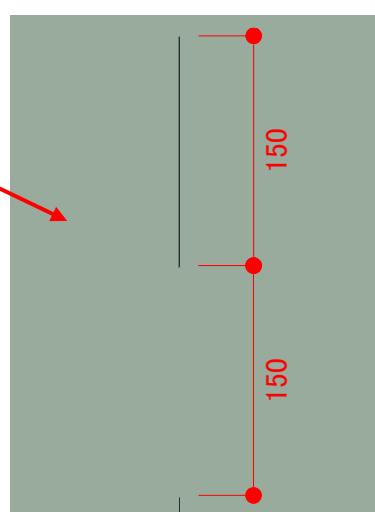


図 4-3 拡大図（中央部）

[ねじ本数一覧表]

- ・表5に、面材のサイズごとのねじ本数が記載されておりますので、記載されている本数を遵守してください。
- ・ねじ本数の算出方法については、次ページをご確認ください。

表5 各仕様のねじ本数一覧

種類	ドリリングタッピングねじDTSN4.2×32		
間隔	外周部間隔 75mm 以下 中通り間隔 150mm 以下		
	面材長辺からの縁端距離 たて枠位置	10mm	
本数	面材短辺からの縁端距離 繰手受材位置	10mm	
	上枠・下枠位置	15mm	
面材外周部 短手方向長さ	900mm 以上 920mm 以下	13本	面材中通り 長手方向長さ
	920mm 以上 995mm 以下	14本	1535mm 以上 1538mm 以下 9本
	995mm 以上 1000mm 以下	15本	1538mm 以上 1688mm 以下 9本または10本
面材外周部 長手方向長さ	1535mm 以上 1538mm 以下	21本	1688mm 以上 1838mm 以下 10本または11本
	1538mm 以上 1613mm 以下	22本	1838mm 以上 1988mm 以下 11本または12本
	1613mm 以上 1688mm 以下	23本	1988mm 以上 2138mm 以下 12本または13本
	1688mm 以上 1763mm 以下	24本	2138mm 以上 2288mm 以下 13本または14本
	1763mm 以上 1838mm 以下	25本	2288mm 以上 2438mm 以下 14本または15本
	1838mm 以上 1913mm 以下	26本	2438mm 以上 2588mm 以下 15本または16本
	1913mm 以上 1988mm 以下	27本	2588mm 以上 2738mm 以下 16本または17本
	1988mm 以上 2063mm 以下	28本	2738mm 以上 2888mm 以下 17本または18本
	2063mm 以上 2138mm 以下	29本	2888mm 以上 3038mm 以下 18本または19本
	2138mm 以上 2213mm 以下	30本	3038mm 以上 3188mm 以下 19本または20本
	2213mm 以上 2288mm 以下	31本	3188mm 以上 3338mm 以下 20本または21本
	2288mm 以上 2363mm 以下	32本	3338mm 以上 3488mm 以下 21本または22本
	2363mm 以上 2438mm 以下	33本	3488mm 以上 3638mm 以下 22本または23本
	2438mm 以上 2513mm 以下	34本	3638mm 以上 3788mm 以下 23本または24本
	2513mm 以上 2588mm 以下	35本	3788mm 以上 3865mm 以下 24本または25本
	2588mm 以上 2663mm 以下	36本	
	2663mm 以上 2738mm 以下	37本	
	2738mm 以上 2813mm 以下	38本	
	2813mm 以上 2888mm 以下	39本	
	2888mm 以上 2963mm 以下	40本	
	2963mm 以上 3038mm 以下	41本	
	3038mm 以上 3113mm 以下	42本	
	3113mm 以上 3188mm 以下	43本	
	3188mm 以上 3263mm 以下	44本	
	3263mm 以上 3338mm 以下	45本	
	3338mm 以上 3413mm 以下	46本	
	3413mm 以上 3488mm 以下	47本	
	3488mm 以上 3563mm 以下	48本	
	3563mm 以上 3638mm 以下	49本	
	3638mm 以上 3713mm 以下	50本	
	3713mm 以上 3788mm 以下	51本	
	3788mm 以上 3863mm 以下	52本	
	3863mm 以上 3865mm 以下	53本	

[ねじ本数の算出方法]

- 面材の外周部及び中通りの部分における、ねじ本数の算出方法について（図5参照）

面材の長手方向及び短手方向の辺長（H, L）から縁端距離（H1+H2, L1+L2）を引いた長さ（H-（H1+H2）、L-（L1+L2））を算出し、その長さを各部のねじ間隔（P、Q）で割ります。外周部のねじ本数はその値の小数第一位を切り上げて1を加えた値とし、中通りの部分のねじ本数はその値の小数第一位を切り上げて1を引いた値とします。

面材四隅のねじは長手・短手両方向のねじ本数として数えることとしますが、中通りの部分と外周部のねじを結ぶ直線上のねじは、中通りの部分のねじ本数として数えないものとします。ここで、Lは900mm～1000mmのいずれかの値、Hは耐力壁の施工仕様に応じた下側もしくは上側の面材の長さの値、H1及びH2は15mm、L1およびL2は10mm、Pは75mm、Qは150mmとします。

計算例 幅910mm 長さ2740mmの場合

- 長手方向 H=2740mm
- 短手方向 L=910mm
- 縁端距離 H1,H2=15mm
- 縁端距離 L1,L2=10mm
- 留め付け間隔 外周部 P 75mm
中通り Q 150mm

ねじの本数

$$\begin{aligned} \text{長手方向: } & (2740 - (15 + 15)) / 75 \\ & = 36.1 \Rightarrow \text{小数第一位切り上げ} \Rightarrow 37 \\ & \Rightarrow 37 + 1 = \underline{\underline{38}} \text{ 本} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{短手方向: } & (910 - (10 + 10)) / 75 \\ & = 11.8 \Rightarrow \text{小数第一位切り上げ} \Rightarrow 12 \\ & \Rightarrow 12 + 1 = \underline{\underline{13}} \text{ 本} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{中通り部: } & (2740 - (15 + 15)) / 150 \\ & = 18.1 \Rightarrow \text{小数第一位切り上げ} \Rightarrow 19 \\ & \Rightarrow 19 - 1 = \underline{\underline{18}} \text{ 本} \end{aligned}$$

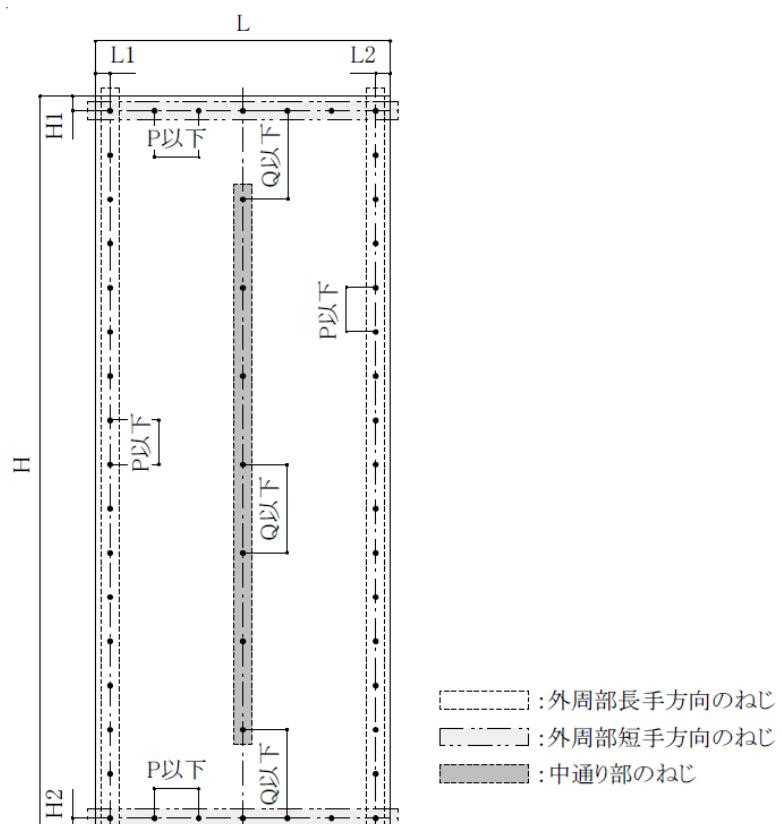


図5 THHT ネクストねじ留め付け本数概略

計算結果 幅910mm、長さ2740mmの場合、ねじの使用本数は合計116本となります。

6. 施工方法

施工においては、図6および注意事項に記載の内容を遵守してください。

 : THHT ネクスト

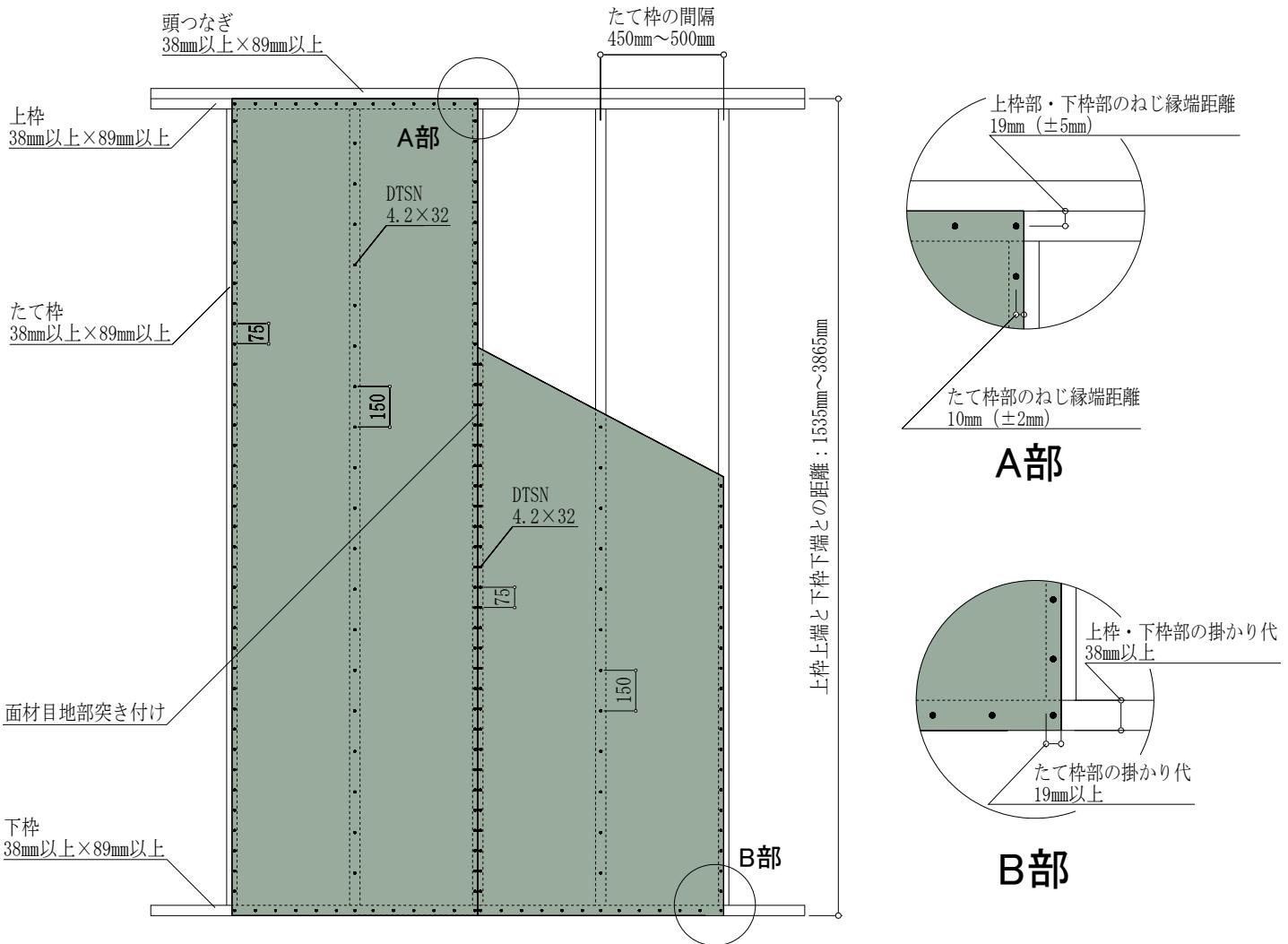


図6 枠組壁工法 (TBFC-0168 : 2.4倍) 施工概略図

[枠組材に関する注意事項]

- ・枠組材の品質は、告示第 1540 号第 2 第一号の規定に適合するものとしてください。
- ・耐力壁を構成する枠組材（たて枠、上枠、下枠、等）の断面寸法は、告示第 1541 号第 1 第四号の規定によります。
- ・たて枠間隔は、450mm 以上 500mm 以下としてください。
- ・枠組材相互の緊結は、告示第 1540 号第 5 第十五号の規定によります。
- ・耐力壁の高さ（上枠上端と下枠下端との距離）は、1535mm 以上 3865mm 以下とします。

[面材の施工に関する注意事項]

- ・THHT ネクストは、必ず枠組に直張りとしてください。
- ・THHT ネクストは、原則 1 枚張りとします。縦継ぎ張りについては、P11 「①縦継ぎ張りについて」をご確認ください。
- ・THHT ネクストは、必要に応じてカットして使用してください（幅方向、長手方向とも）。
- ・たて枠部分で THHT ネクストを継ぐ場合、突き付けとなるように施工してください。
- ・面材の留付け方法は、P5 「5. ねじ打ちに関する注意事項」を遵守してください。

7. 各部の施工方法

①縦継ぎ張りについて

- THHT ネクスト枠組壁工法は、継手受材（38mm 以上×89mm 以上）を用いて縦継ぎ張りとすることで、より大きい高さの耐力壁をなすことが可能です。
但し、各仕様の概要は表 6 の通りとなっておりますのでご注意の上、必ず各認定書（別添）をご確認ください。
- 縦継ぎ箇所は 1 箇所迄とし、下側面材寸法は、長さ 1820、2730、3030mm のみとなります。
それぞれ上枠材上端と下枠材下端との距離の下限値が異なりますのでご注意ください。詳しくは認定書（別添）をご確認ください。
- 継手受材を設ける場合は、たて枠に「直接」取り付けてください。
- 縦継ぎ張りの場合もねじ本数が規定されており、面材寸法に応じたねじ本数を厳守してください。ねじ本数表については各認定書（別添）に記載されておりますので、必ずご確認ください。尚、計算方法は、P8 に記載の通りです。

表 6 縦継ぎ張りの概要

下側面材の長さ	上枠材上端と下枠材下端との距離	継手受材（断面寸法）
1820mm	1999～4576mm	見付け 38mm 以上 × 見込み 89mm 以上
2730mm	2909～4555mm	
3030mm	3209～4555mm	

②その他注意事項

- 指定の用途以外にご使用の場合は性能を保証いたしかねます。
- THHT ネクストは、太陽光や雨水等が当たると変色・褪色する場合がありますが、性能に影響はありません。
- THHT ネクストの切断作業では集塵などに留意し、防塵カッターや集塵丸鋸を使用してください。
また、サンディングなどの作業で発生する粉塵に対しては、防塵マスクや安全メガネを着用してください。
- 在庫の際、積層段数が多いと荷くずれの危険があります。
- THHT ネクストの廃材、梱包材および洗浄排水の処理は、環境公害とならないようご注意ください。
- THHT ネクスト耐力壁と他の耐力壁を併用する場合は、P2 の適用範囲内において、倍率 7 倍を限度としてそれぞれの倍率を加算できます。ただし、加算した倍率の数値の合計が 5 を超える場合には、当該の壁の枠材に実際に作用する圧縮力及び引抜力に対して横架材・基礎ばかりが十分な強度を有することを確認してください。
- 確認申請の際、大臣認定書（写し）の添付が必要になる場合があります。大臣認定書（写し）の入手についてはホームページまたは各支店 営業所にご請求ください。

※その他、本資料に記載のない事項につきましては、あらかじめお問合せいただきますようお願い申し上げます。
また、本資料に記載のない納まで施工された場合は、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

THHT ネクスト耐力壁 自主検査チェックリスト

物件名		住所	
施工者名		監督者名	
検査日		検査員名	
検査箇所		立合者	工事監理者・その他 ()

検査内容		チェック項目（合否）		備考 (是正日等)
項目	詳細内容	TBFC-0168		
枠組	枠組材寸法	たて枠、上枠、下枠 継手受材	38mm × 89mm 以上	
	枠組材間隔	たて枠相互の間隔 (たて枠芯)	450mm～500mm	
		上枠上端と 下枠下端との距離	1,535mm～3,865mm	
面材の固定	ねじの種類	ドリリングタッピンねじ DTSN4.2 × 32		
	ねじの間隔	外周部 @ 75mm (マーキングからのずれ ± 8mm)		
		中間部 @ 150mm (マーキングからのずれ ± 15mm)		
	ねじの縁あき 距離	たて枠部	10mm (± 2mm)	
		上枠・下枠部	19mm (± 5mm)	
	ねじのめり込み	面材表面に面一になるように エアー圧を調整・試し打ちを行ったか		
	上枠・下枠との掛かり代	38mm 以上		
	各辺のねじ本数が、施工仕様書および認定を満たしているか			
固定後のボードに割れ、欠け、凹み等が無いか (不具合時は張替え)				

※本チェックリストは施工仕様書の全内容を網羅したものではありません。必ず施工仕様書をご確認ください。

また、施工監理上必要な検査項目は別途、現場毎にご検討ください。